

一反通遺跡範囲確認調査

所在地	鈴鹿市上野町地内
事業主体	個人
調査目的	太陽光発電システムの杭打ち工事に伴う 埋蔵文化財の記録保存
調査期間	平成29年9月20日～平成29年10月27日
調査面積	122㎡
調査主体	鈴鹿市文化スポーツ部文化財課
調査担当	田部 剛士, 佐藤 梨花



地図1 一反通遺跡の位置 ※国土地理院地形図5万分の1「四日市」を使用(縮尺任意)

1 今回の調査

1～5トレンチを設定, 1メートル幅で掘削を行う(図1)

①時期不明(弥生時代?)

木棺墓1 短辺1mほどの方形, 東辺には短軸方向に落ち込みが存在
→組合式箱形木棺が納められていた?

木棺墓2 短辺1mほどの方形, 木棺墓1とは異なり落ち込みは見られない

②弥生時代中期

方形周溝墓 東コーナー付近を検出, 弥生時代中期後半ごろの土器片が出土
溝(環濠?) 弥生時代中期の土器を含む溝が数条 幅1～2m, 深さ0.6mほど?

③弥生時代後期

溝(環濠) 第1次調査で確認された溝の続き, 幅約2mほどか, 深さ1mほど
多量の土器が発見される

④中世

溝 幅1.5mほど, 深さ0.4m以上で数条見つかる。鎌倉時代ごろの遺物が存在。
区画溝か。

2 これまでの調査

①第1次調査

弥生時代後期の溝(環濠)を確認, 銅鐸片や銅鐸形土製品, 多量の土器を発見

②第2次調査

弥生時代中期の溝を2～3条確認, 同一方向に走る

③第3次調査

中世の溝などを確認

④第4次調査

弥生時代前期の溝や, 弥生時代前期の土器を含む溝等を確認

3 一反通遺跡の姿

弥生時代前期に集落形成?



弥生時代中期には2条の環濠を持つ, 環濠集落となる?



弥生時代後期に新たに環濠掘削, そして後期後半には埋められる?



古墳時代までには集落終焉?



鎌倉時代に何らかの土地利用

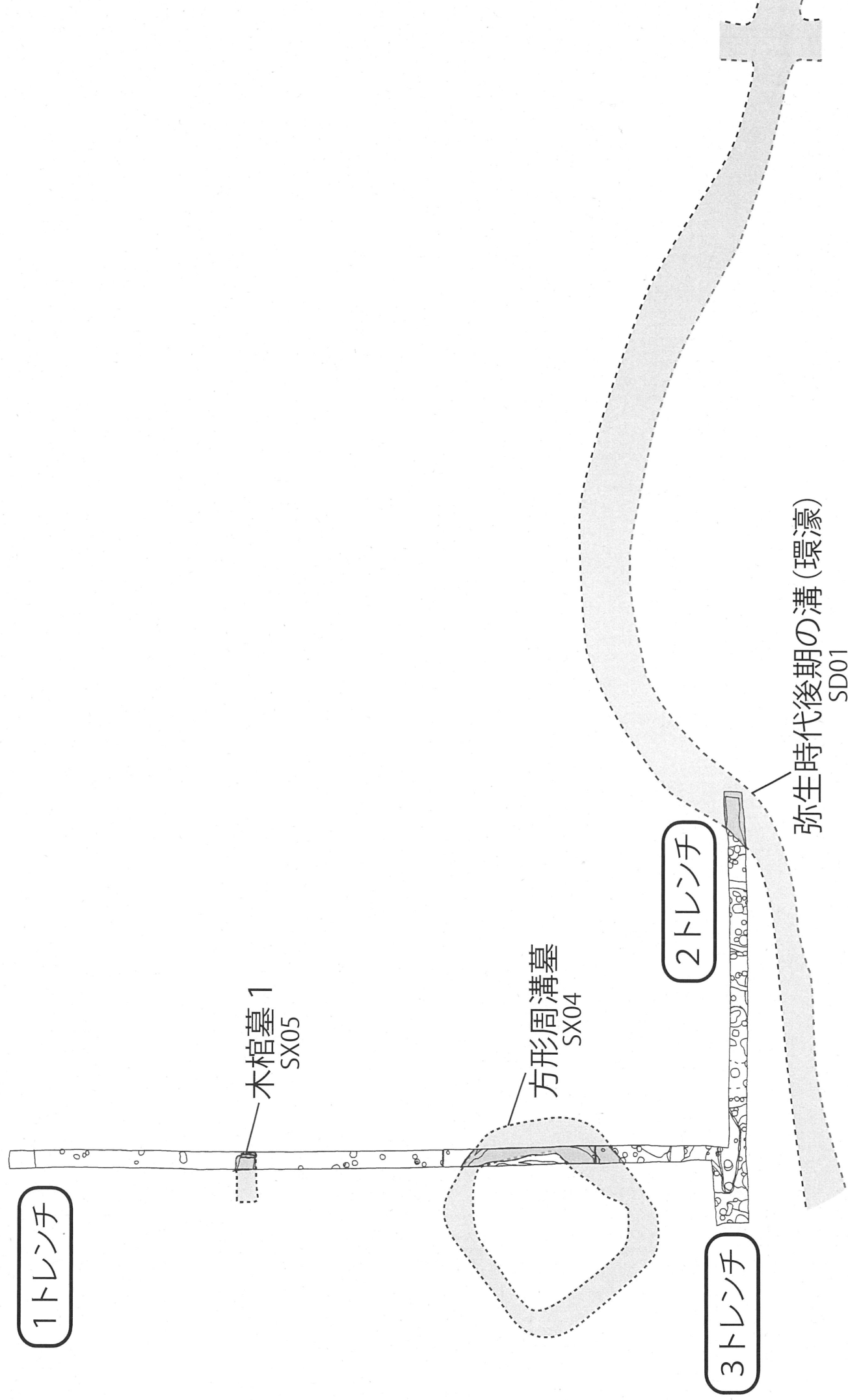


図1 遺構平面図

岡田南遺跡第4次調査

所在地	鈴鹿市岡田一丁目地内
事業主体	個人
調査目的	個人物置建築工事に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間	平成29年8月31日～平成29年9月14日
調査面積	23.19 m ²
調査主体	鈴鹿市文化スポーツ部文化財課
調査担当	佐藤 梨花



岡田南遺跡の位置 ※国土地理院地形図5万分の1「四日市」を使用(縮尺任意)

1 これまでの調査

①第1次調査

古墳時代 木棺墓や方墳 →木棺墓にはガラス玉100点以上など、多くの玉類が存在
 古代 竪穴建物や土坑など
 中世 井戸や掘立柱建物など

②第2次調査

縄文時代 柱穴
 弥生時代 溝や土坑

③第3次調査

縄文時代 土器敷きがしてある土坑
 弥生時代 方形周溝墓

2 今回の調査成果

①古墳時代

溝 幅0.6～0.7m深さ0.25mほどで南北方向に走る。調査区内で途切れる。
 台が付くタイプの甕(宇田型甕か)が見つかる。

②古代

竪穴建物 約3m×?m、同一箇所建て替えか。カマドが見つかる。
 竪穴建物の内部には楕円形(1m×1.5mほど、深さ約0.2m)の土坑

③中世

土坑 西辺約1.4m、深さ約0.3mの方形 常滑焼片など出土

3 遺構図

